

今野晃嗣（動物社会認知科学）・茂木一孝（動物社会神経科学）

久世明香（動物臨床行動学）・永澤美保（同調的共生）

菊水健史（集団内分泌）・藪田慎司（帝京科学大学）

研究の背景

- 多くの動物は、食べ物の数や量を選べる状況に置かれると、数量の違いを見分けて、多い方を好んで選びます。
- でも、少し意地悪をして、多い方を選ぶと少ない方を与え、少ない方を選ぶと多い方を与えると、どうするでしょう？
- 実は、多くの動物は多い方を選び続けてしまい、「わざわざ少ない方を選んで多い方をもらう」ことができません。
- これはチンパンジーでも難しい課題だとされていますが、もしかすると、イヌはできるかもしれません！



イヌの正面に2つの皿を置きます
イヌはどちらを選ぶでしょう？

アプローチ

- そこで本プロジェクトでは、家庭で暮らすイヌを対象にして、イヌの「食べ物の数量弁別」の能力を調べます。ポイントは「長期にわたる実験を行う」ということです。
- 1. 実験1「数量弁別」：イヌが食物が多い方の皿を選ぶことができるかどうかを調べます。
- 2. 実験2「逆転学習」：「正解」を逆転させたときに「わざわざ少ない方を選んで多い方をもらう」ことができるのか、それとも「多い方を選び続ける」のかを調べます。
- 3. 実験の様子をビデオカメラで記録してイヌがどのような選択をするのかをまとめます。

期待される結果

- イヌがもつ隠れた学習能力が明らかになるはずです。もしイヌでこの種の逆転学習ができることがわかれば、世界初の発見です。一方、イヌでは難しいことがわかって、学習能力の種特異性を示す重要な発見です。
- 本プロジェクトに参画する学生は、実験を通じてイヌをトレーニングする技術が身につきます。また、動物行動学において基本となる研究手法（実験・記録・解析・発表）を体験的に学ぶことができます。



募集方法

- 人数：最大5名。以下の条件に該当する学生。
- 条件：「自分のご家庭でイヌを飼育している方」に限定します。対象となるイヌの犬種や性別などは問いません。ただし、学生さん自身が実験者になりますので、対象個体の行動をうまくコントロールする必要があります。実験が長期に及ぶことも覚悟してください。
- 選考：説明会に参加してください。希望者多数の場合は面接により選抜します。
- 連絡先：今野晃嗣（konno@azabu-u.ac.jp）にメールにてお問い合わせください。